

(件名)

「学校における業務改革プラン」の改訂

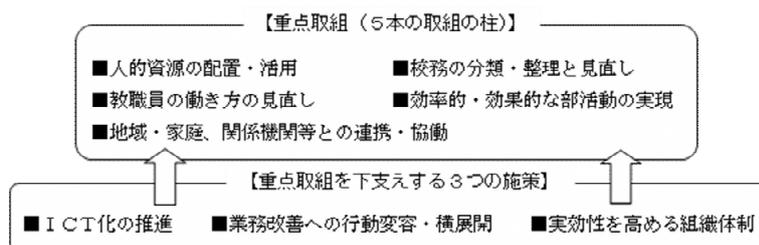
(教育政策課)

1 要旨

平成31年2月に策定した「学校における業務改革プラン」が、令和3年度で取組期間が終了するため、現プランの重点取組の評価や、今後に向けた課題を踏まえて改訂する。

2 改訂の考え方

- 全体の構成は現プランを踏襲
- 現プランの取組状況等を踏まえ、「5本の取組の柱」からなる重点取組を更新するほか、それを下支えする3つの施策を踏まえた取組を追加。関連指標の追加・変更



- その他の章は、中教審答申など新たな方向性を踏まえて更新

3 プランの構成

目的	元気で魅力あふれる教職員の手で、夢いっぱいの学校にするため、「教育の質の向上」と「教職員の心身の健康の保持増進」を目指す
期間	令和4年度から令和7年度
I プランの概要	
II 国における学校の業務改善に関する動向	
III 本県の教職員の勤務状況	
IV プランに基づく取組状況と今後の取組の方向性【新設】	
V 本プランにおける目標	
VI 重点取組	
VII 各校種におけるモデル事業の成果	
VIII プランの進行管理	

4 プランに基づく取組状況と今後の取組の方向性（概要）

(1) 目標指標の評価

- ・「長時間に及ぶ時間外在校等時間」、「児童生徒と向き合う時間や指導準備時間」は改善傾向が見られ、「管理職と教職員が業務改善を協議する場の設置」が進展。
- ・新たな教育課題に向き合う教職員の時間的余裕を生み出す業務改善が更に必要。

指標（抜粋）	目標	R2（直近実績）	評価（H29比較）
月80時間超の時間外在校等時間(教員)	0%	小 3.4%、中 14.9% 高 7.6%、特 0.07%	小 16%*、中 62%*、高 9%、 特 0.1%から改善も、目標未達成
多忙化解消の研究成果の活用(学校)	100%	小 92.1%、中 88.8% 高 60.8%、特 89.2%	小 50%、中 43%、高 38%、特 84% から改善も、目標未達成
児童生徒と向き合う時間・指導準備時間増加の実感(教員)	100%	小 54.0%、中 59.7% 高 55.8%、特 59.8%	小 31%、中 40%、高 27%、特 42% から改善も、目標未達成
管理職と教職員が業務改善を協議する場の設置	100%	小 97.5%、中 95.9% 高 100%、特 100%	小 95%、中 94%、高 94%、特 97% 概ね目標値を達成

※ 小・中学校は「未来の学校『夢』プロジェクト」のモデル校の事業開始前における平成27年度数値

(2) 今後の業務改革の方向性

区分・内容等	
ア	<p>「5本の取組の柱」からなる重点取組の継続・発展</p> <p>■人的資源の配置・活用 ■校務の分類・整理と見直し ■教職員の働き方の見直し</p> <p>■効率的・効果的な部活動の実現 ■地域・家庭、関係機関等との連携・協働</p>
	<p>○重点取組の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教職員人材バンク」の学校での活用促進 ・校内事務や保護者連絡等の校務のICT化の推進 ・新たに導入する健康管理システムの効果的な活用 など
イ	<p>重点取組を下支えする「3つの施策」を踏まえた取組の推進</p> <p>■ICT化の推進 ■業務改善への行動変容・横展開 ■実効性を高める組織体制</p>
	<p>○3つの施策を踏まえた取組の追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習・校務を可視化・連動させるシステム（LMS）を活用した働き方改革の検討 ・学校版1改革運動の導入検討 ・組織横断的な取組推進と進捗管理を行う教育DX推進課の設置 など

5 今後の取組

- ・教育委員会においては、新設する教育DX推進課を中心に、ICTを最大限に活用し、学習指導や校務、働き方の改革を一体的に推進する。
- ・業務改善に係るノウハウや優良事例の共有を積極的に行い、教職員個々の主体的取組と、校長のリーダーシップに基づく学校の組織的改善を促進する。